

折に触れ 四字熟語

NO. 155 〔三思後行〕 さんし こうこう

< 意味 > 物事を行うとき、熟慮したのち、初めて実行すること。三たび思い考えた後に行う意から。もとは、あまり慎重になり過ぎると断行できず、また、別の迷いを生ずるのを戒める言葉であったが、今では一般に軽はずみな行いを戒める語として用いられる。

< 出典 > 「論語」<公冶長>

「季文子三思而後行。子聞之曰、再斯可矣。」

読み下し：季文子三たび思きぶんしいて後に行う。子これを聞きて曰く、「ふたたびせばこれ可なり」。

通 釈：季文子は、慎重な人物で、三べん考きぶんしえてから実行に移したという。「いかに慎重とはいえ、二へん考えれば十分だろうに」と、孔子は言った。

語 釈：「季文子」は魯の大夫、季孫氏の三代目の当主。

一 言：現在の四字熟語の意味と出典のそれとは少し違うようです。皆さんならどちらの考えを支持されるでしょうか。

参照文献：徳間書店「論語」 岩波書店「四字熟語辞典」